

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について（6年）

平成31年4月18日に6年生の全国学力調査（国語・算数）を行いました。その結果が集計され送付されてきましたのでお知らせします。児童一人一人には、個人の結果と分析を配布いたしました。それには、問題の内容別の正答率が出ています。学習内容がどれくらい身に付いているかを確認して、今後の学習に役立ててください。学校としては、この結果や分析を授業改善プログラムに反映するなどして、本校の教育活動の一層の充実と改善を図ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 【国語】

## 1. 結果

		正答率		
		大泉小	東京都	全国
教科全体		69	65	63.8
領域	話すこと・聞くこと	74.6	73.1	72.3
	書くこと	62.7	55.4	54.5
	読むこと	81.1	83.0	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.9	55.7	53.5

※ 太字は、全国・都平均を上回っているもの。

## 2. 分析

大泉小の正答率は、「読むこと」以外はすべての項目で都平均と全国平均を上回っています。特に、「書くこと」では都平均より7.3ポイント、全国平均より8.2ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では都平均より5.2ポイント、全国平均より7.4ポイント上回っています。これは、日常的に一人一人の記述について指導者が丁寧に添削したり、児童に推敲させたりすることを繰り返してきた結果であると考えます。一方、「読むこと」では都平均より1.9ポイント、全国平均より0.6ポイント下回りました。これは、目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら読むことや文章全体を概観して読むことに、児童が苦手意識をもっているのだと考えられます。物語や小説ばかりを読むのではなく、伝記や説明文、科学読み物等にも読書の範囲を広げ、著者の考えを考える機会をもたせることが重要だと考えます。

今後は、文章の内容に着目させたり、文章全体を概観して読ませたりして、効果的な読み方ができるよう指導していきます。そのため、より一層、読書活動を活用します。いろいろな分野の本に触れる機会を作ったり、課題図書を決めて普段あまり手に取らない本に触れる機会を作ったりします。また、書かれていることを簡単まとめる活動を入れ、「読むこと」の能力が伸ばせるよう、指導していきます。

## 【算数】

### 1. 結果

		正答率		
		大泉小	東京都	全国
教科全体		<b>71</b>	70	66.6
領域	数と計算	<b>66.7</b>	66.7	63.2
	量と測定	<b>62.2</b>	57.5	52.9
	図形	<b>81.3</b>	79.0	76.7
	数量関係	<b>74.8</b>	72.2	68.3

※ 太字は、全国・都平均を上回っているもの。または、同じもの。

### 2. 分析

大泉小の正答率は、ほぼすべての項目で都平均と全国平均を上回っています。しかし、数学的な考え方の問題に対して、正答率が低いという結果があります。また、数量や図形についての知識・理解においても、正答率が都平均や全国平均より低い傾向があります。このことから、算数における様々な知識や理解の定着が図られておらず、数学的な考え方ができていないと考えられます。数量や図形の内容をしっかりと理解し、定着させることで数学的な考え方の能力を伸ばすことができると考えます。

今後は、習熟度別少人数制の良さをより一層発揮し、それぞれのコースで、コースに合った指導内容を検討します。そして、どのコースでも知識の定着を図り身に付けた知識を使って、自分の考えをもち、文字や絵、図にして表現することを繰り返し、思考力・判断力・表現力を身に付けられるように指導していきます。知識を身に付けるだけでなく、身に付けた知識を使ってよりよい解決方法を考えられるような態度を育て、算数の理解をさらに深めていけるようにしていきます。